

第 10 回 大臣表彰受賞者一覧

1	全日本空輸株式会社 ANA ウイングス株式会社	<p>○プロペラ機への搭乗アダプターの開発等、空港・機内・搭乗時の各シーンにおけるバリアフリー化</p> <p>ANA グループでは、2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピック開催を迎えるにあたり、また将来的な高齢化社会を控え、ソフト、ハード両面からバリアフリー化を推進し、すべての利用者が不安・ストレスなく、より快適に飛行機を利用できる環境の整備に努めるべく、利用者の声を参考に、空港や機内における各シーンにおいて、製品開発、導入を進めている。</p>
2	仙台市	<p>○バリアフリー化された津波避難タワー等による、高齢者・障害者等にも対応した面的避難エリアの実現</p> <p>仙台市では、東日本大震災の津波により被害を受けた沿岸部において、津波避難施設を計画的に整備することにより、面的避難エリアの形成を目指している。その計画にあたっては、高齢者や障害者等を「災害時要援護者」と位置づけ、その特性に応じた施設配置やバリアフリー化された施設整備を進めている。</p>
3	仙台市交通局	<p>○計画段階からの障害当事者参加による、地下鉄車両と駅舎のバリアフリー化</p> <p>仙台市交通局では、平成27年12月に新たに開業した地下鉄東西線の整備に当たり、計画段階から障害当事者の参加のもと意見聴取を行い、設計等に反映させている。その結果、車いすでも介助無しで乗降できるなど、車両と駅舎の双方において最先端のバリアフリー化がなされている。</p>
4	西日本旅客鉄道株式会社 高槻市	<p>○行政と鉄道事業者等の協同による、駅および周辺施設の面的バリアフリー化のスパイラルアップ</p> <p>高槻市では、高齢者・障害者等の当事者の参加のもと、バリアフリー基本構想を作成し、さらにスパイラルアップを行ってきた。本計画のもと、駅や周辺施設の面的バリアフリー化が進められ、特にJR高槻駅では新型ホーム柵が導入される等、先駆的な取組みが行われている。一方、基本構想の策定後毎年開催されている継続協議会等を通じて、障害当事者のニーズにきめ細かく対応した事業も併せて進めている。</p>